

■セミナー概要

- ・受講対象者：新宿駅周辺地域の施設管理者、防災管理者等
※防災管理者とは改正消防法で実際にビルの防災計画を立案し、推進される方を想定しています。具体的には、資格取得された(または予定する)総務・防災関係の責任者の皆様です。
- ・開講期間：平成 22 年 5 月 11 日～平成 22 年 10 月 26 日 (全7回、隔週火曜日)
- ・場 所：工学院大学新宿キャンパス
- ・時 間：14:40～17:50 (※第6回「地震防災訓練」は除く)
 〔 1時限 14:40～16:10 (講義)
 2時限 16:20～17:50 (事例紹介や演習) 〕
- ・毎回アンケートを実施し、テキストは平成 22 年度版を主とし、加えて追加資料や事例集を配布します。
- ・第6回は総合防災訓練・地震防災訓練を行います。(10月5日(火)14:00～16:30)
 今年度の地震防災訓練の主題は地域災害医療です。
- ・セミナー以外にイベント等も行い、終了後にはシンポジウム報告会(1月予定)を実施します。

(お申し込み・お問い合わせ) 工学院大学BCP事務局(連絡先: 下記参照)

■セミナーカリキュラム一覧

プレイベント 5月11日(火) 14:00～18:00(終了後、意見交換会): 工学院大学新宿キャンパス
 災害医療にとつてのDCP(District Continuity Plan)～帰宅困難と治療困難～
 (企画: 新都心の地域減災セミナー&医療業務地区DCP施設連携構想検討委員会)

第1回. 5月25日(火): 新宿地域・高層建築で想定される地震被害と対策(自助・ハード対策)
 1時限: 想定される地震被害と高層ビルの負傷者推定
 2時限: 高層建築の地震被害対策(什器・備品の固定化、事例報告、議論)

第2回. 6月8日(火): 大規模建物の消防計画と総合防災訓練(自助・ソフト対策)
 1時限: 改正消防法に基づく消防計画と総合防災訓練モデル
 2時限: 消防計画と総合防災訓練(事例報告など)

第3回. 6月29日(火): 震災時の救急災害医療と地域連携(共助・公助)
 1時限: 救急災害医療の現状(地域防災計画・負傷者推定・災害医療体制など)
 2時限: 震災時の災害医療と対策(事例報告)

第4回. 7月20日(火): 新宿駅周辺地域と地域連携(共助・公助)
 1時限: 新宿駅周辺地域の想定地震被害と対策の現状(協議会・鉄道機関などの)
 2時限: 地域連携による震災対策(事例報告、負傷・医療機関データ、10/5の訓練予定など)

○8月中旬: 見学会(予定): 先端的な震災対策の事例など

○8月下旬: トリアージ訓練など(予定)

第5回. 9月7日(火): 新宿駅周辺地域と総合防災訓練と地震防災訓練
 1時限: 総合防災訓練と地震防災訓練の説明
 2時限: 総合防災訓練と地震防災訓練への参加・検証

第6回. 10月5日(火) 総合防災訓練・地震防災訓練への参加・検証(14:00～16:30)
 詳細は別途連絡。訓練終了後に反省会を行います。

第7回. 10月26日(火) 防災訓練の検証と今後の展開に向けて
 1時限: 総合防災訓練と地震防災訓練の検証と課題
 2時限: 今後の展開に向けて(事業・地域継続計画、地域防災センターなど)

■1月: セミナー報告会(シンポジウム)を開催予定

(お問い合わせ)

工学院大学事業部BCP事務局 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
 Tel: 03-3340-1613(平日9:00-17:00) Email: bcp_jigyuu@sc.kogakuin.ac.jp
 http://www.kogakuin.ac.jp/bcp/index.html(新都心の地域減災セミナー)

文部科学省新規学習ニーズ対応プログラム

22年度 新都心の地域減災セミナー

施設管理者・防災管理者のための実践的セミナー



学校法人工学院大学 理事長 大橋秀雄

新宿駅周辺地域は、全国一の超高層ビル群や繁華街が混在し、かつ国際色豊かな 24 時間都市でもあります。この地域全体の地震被害軽減は、単に新都心地域の被害にとどまらず、わが国の経済・産業の損失を未然に低減するという視点からも非常に重要な課題でもあります。本セミナーは新宿駅周辺地域のビルの施設管理者や防災管理者が、区・大学・民間企業と協働し、新都心の地域特性とビルの耐震・防災に関する幅広い知見を深め、それらを日々の防災管理につなげ、震災リスクの低減と減災につなげることを目的として開催いたします。

新宿区長 中山弘子

減災社会の実現を目指し、地震等の災害に対する備えを強化していくことは、安全・安心のまちづくりを進める新宿区にとって、喫緊の課題です。このたび、新都心の地域減災セミナーが文部科学省ご支援のもと工学院大学主催で開催されますことは、首都直下型地震の発生が危惧される中で、大変心強く意義深いことと考えます。過去の震災と新たな知見に学び、新宿新都心を「防災サステナブル・コミュニティ」として構築する第一歩として、出来る限りの協力をさせて頂きたいと思っております。(協力 新宿区)

施設管理者・防災管理者のための実践的セミナー

工学院大学は、文部科学省・新規学習ニーズ対応プログラム「首都直下地震に備える施設管理者への減災対策および復旧復興マネジメント教育プログラム」の助成を受け、学外有識者を迎えた BCP プログラム開発委員会を発足し、平成 21 年度より防災管理者等を対象とした「新都心の地域減災セミナー」や関連イベントなどを実施しています。

本セミナーでは、超高層建築など大規模建築物の震災対策（消防計画への対応など）を本学などの実例を交えて講習を行うとともに、セミナーを通じて、顔の見える地域防災ネットワークづくりとDCP (District Continuity Plan) を推進しています。

プログラムのねらい

■建物や周辺地域の実際の震災を知り、現実的な被害想定を行う

耐震対策のために最も重要なスタートは、対象となる建物や周辺地域の現実的な震災をイメージし、被害想定を行うことです。本セミナーでは過去の震災事例などの豊富な教材を提供し、首都圏におこりうる被害を理解します。

■工学院大学新宿校舎を教材にした防災計画・震災対策の具体的な立案と改善方法を知る

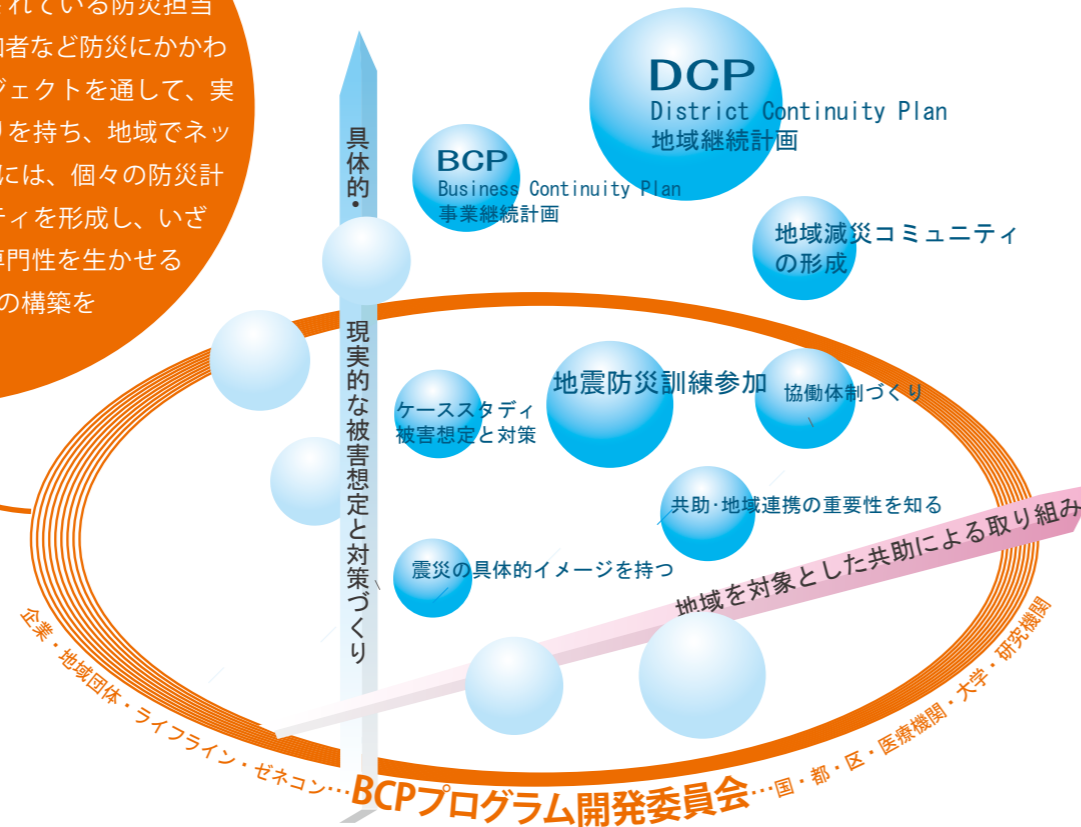
超高層建築である工学院大学新宿校舎を具体的な教材とし、建築の構造・建築設備・防災施設から緊急時対応組織や備蓄品・マニュアル、防災計画の立案や防災訓練への参加など、震災対策の立案と改善法などを学びます。

■新宿駅周辺地域を知り、震災時に実際に協働できる体制づくりを行う

大震災では自助による震災対策に加え、地域の自治体や事業者などの共助による協働体制づくりが重要です。本セミナーでは新宿駅周辺地域の震災対策の現状を知り、地震防災訓練への参加など、地元の協働体制づくりに参加します。

‘顔の見えるネットワークづくり’とは？

防災に関する有識者で構成される BCP プログラム開発委員会、現在ご活躍されている防災担当者である受講生、各イベント参加者など防災にかかわる様々な分野の方々が、本プロジェクトを通して、実際に顔と顔を合わせて、つながりを持ち、地域でネットワークをつくります。最終的には、個々の防災計画が地域と連携するコミュニティを形成し、いざという時、協働で、個々の専門性を生かせる実行可能なネットワークの構築を目標とします。



※イラストはセミナーのテーマをイメージ化したものです。

平成 22 年度は
5/25 スタート

■セミナー (カリキュラム詳細は裏面をご参照ください。)

1時限：講義



各回2~3名の講師をお招きして、講義いただきます。

2時限：演習

事業者・団体、各機関の事例発表や設備や備品の見学などを通して、参加者同士で議論しながら、情報を共有し、実際に実行可能な対策を考えていきます。



※資料 震災対策のための開発ソフトに加え、各メディアや専門機関が作成した映像やアニメーションから効果的なソフトを使用して被害をイメージ化します。



平成 22 年
10/5

■地震防災訓練(予定)

本学が新宿区、東京医科大学、地域事業所・団体等と連携して行う地震防災訓練にご参加いただけます。新宿駅周辺を対象とした広範囲の被害想定、他大学との広域連携、医療機関と連携した多数傷病者対応や、ボランティア活動も含み、実際に同時多発すると予測される様々な被害を想定して行います。またイベントや展示等では、消防・警察機関と連携して体験型訓練の実施などを行います。



詳細はホームページをご覧ください。
「地域減災セミナー」で検索。
<http://www.kogakuin.ac.jp/bcp/index.html>

■各イベント・シンポジウム

セミナー以外にも、防災・減災に関わるイベントの実施を予定しています。



(下) 神戸消防署所有「阪神・淡路大震災の未公開写真」等、各震災の写真を展示 (h21 年国際ワークショップ)



(上) 機清水建設 防災技術研究所 (h21 年度見学会)

(下) 昨年度シンポジウムには新宿区長や地元事業者代表者なども参加 (h21 年シンポジウム報告会)



セミナー終了後は、各分野専門の方を招いたシンポジウム報告会を予定、今後の指針についても検討します。